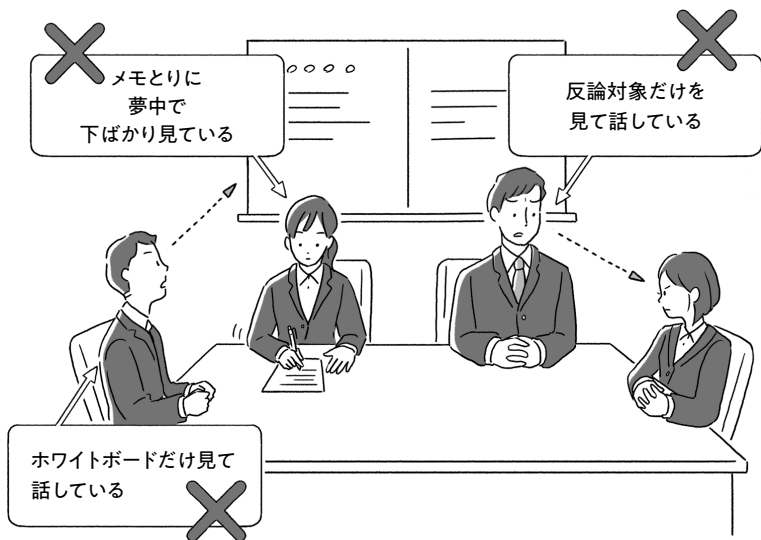


これは避けよう！ やりがちな視線の置き方



3 パターン共通の注意点として、「**評価者**（**人** **事担当者**）**を見ない**」があります。
議論に関係のない評価者を凝視するのは明らかにおかしいし、チラチラ見るのも「気にしている感」が伝わってしまいます。
議論中に視線はやらないようにしましょう。

メモのために下を向きっぱなしの人が多くいますが、議論に参加せず、自分の安全な世界に逃げ込んでいる印象を与えてしまいます。
顔を上げましょう！
③誰も発言していない時は、グループ全体を見渡し、他の人の動向を把握するようにしましょう。

6-3

視線はどこに置く？

発言するときには、**グループ全体を見る**

ここは、①自身の発言時、②他の人の発言時、③誰も発言していない時の3つのパターンに分けて考えます。

まず、①自身の発言時。

しっかり顔を上げてグループ全体に話しかけるよう、俯瞰的、大局的な視点を持つのが基本になります。

メモを見ながら、つつむき加減で話す人がいますがNGです。

疑問点等を指摘してきた人に反論する時も、その人だけを見つめるのではなく、全体を見渡

して、皆から同意を得られるようにしましょう。

ホワイトボード（WB）使用可の場合は、WB上で情報を共有しながら議論を進めるのがセオリーです。

この場合も、WBだけをずっと見ながら話すのではなく、ちゃんと他の人の方にも視線を向けて話すようにしましょう。

討論が始まったら「評価者を見る」は避ける

次に、②他の人が発言する時のポイントです。
まず下を向かないよう気をつけてください。
発言内容をしっかり聴き取るため、発言者の方を向いて注目するようにしましょう。